

(公財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は、8月3日(土)開催のPHI鳥取大会の様態を中心にご報告いたします。

1. JAH1・PHIは8月、米子市で鳥取シンポジウムを開催し、約600名が参加されました

昨年7月、JAH1が立ち上げたプラネタリーヘルス・イニシアティブは、本年3月3日(日)、東京の日比谷の図書文化館大ホールで設立記念シンポジウムを開催し、大盛況の中、「日本から始めるプラネタリーヘルス・アクション宣言」を採択して終了しましたが、参会された鳥取県関係者の方々の熱心な働き掛けにより、その地域版として、この度、鳥取シンポジウムが開催されました。

8月3日(土)午後、米子市淀江町に位置する淀江文化センター「さなめホール」に590名強の一般参加者と30名弱の関係者を合わせて約620名の来場者でホールは満杯となり、同ホールの来場記録となりました。

主催挨拶、共催挨拶、伊木・米子市長来賓挨拶の後、境港市、江府町、鳥取県経済同友会の来賓紹介があり、第一部として桐村代表による基調講演「プラネタリーヘルスと世界における山陰の役割～日本的視座が世界最先端となる自然共生社会」が行われました。桐村代表は、自然共生社会のモデルとして、山陰地方は裏日本ではなく表舞台での役割を果たしていくべき、と主張。休憩時間に食い込む熱弁を振るわれました。

続いて第二部は、「ネイチャーポジティブ視点にたった医食農連携と観光の可能性」をテーマに5人の論者によるトークセッションが行われました。

まず冒頭にPHIの佐藤洋一郎理事がファシリテーターとして、PH推進に当たって種々のアプローチに「横串を通す」ことの重要性を強調された後、田中善理事が地球の環境に良いことは腸内環境にも良いことを、またガイナール鳥取の塚野真樹社長が、地元弓ヶ浜半島で無農薬で育てた芝生で小学校等のグラウンドの芝生化を進めている活動を紹介。生物多様性が維持された芝生との接触が人間の腸内環境に良いことを強調されました。また、沖縄から駆け付けられた内閣府沖縄総合事務局の星明彦運輸部長は、この地を訪れ、住まう価値を提供するために、環境、経済、社会の好循環により、文化、歴史、自然、社会の持続可能性を高める地域経営をすることが大事であることを説かれました。

また、立正大学環境システム学科の横山和成客員研究員は、生物多様性豊かな土壌と貧しい土壌の違いを、土壌の奏でる音楽の多様性によって表現して見せ、3月の東京シンポジウム同様、会場の喝采を浴びました。

最後に、桐村代表が今回の大会のために起草された「鳥取宣言」を朗読し、万歳三唱の後、会場奥から会場参会者をバックに記念撮影して全プログラムを終了しました。

この後、希望者は会場を町内の旧酒蔵に移して、意見交換を行いました。



<日本海新聞>

2. 第1回「ヘルスケア研究助成」成果報告会が開催されました

7月25日(木)午後、本年4月末日まで行われました第1回「ヘルスケア研究助成」の成果報告会が開催され、採択された5件の研究成果がリアルとWEBで報告されました。

当日報告のために使用された資料は近日、JAH1ホームページに公表されます。

3. 「第2回中野どまんなか市」が計画されています

6月13日に試行された第1回に続いて第2回が11月21日(木)10:00~16:00、中野区役所にて開催されます。